

第3回 嘉麻市学校施設整備審議会 会議録

1. 審議会等の名称 平成29年度 第3回嘉麻市学校施設整備審議会
2. 開催日時 平成30年2月28日(水) 19:00~19:50
3. 開催場所 嘉麻市役所 嘉穂庁舎2階 第1会議室
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 非公開の理由(会議を非公開とした場合のみ)
6. 出席者
 - (1) 委員
会 長 安永卓生
委 員 赤崎和徳、三谷章子、村上曙生、飯田千鶴美、
中村忠紀、福永貴義、古賀修治
*欠席委員4名 永富靖人、野上真吾、松隈志津、坂田勲
 - (2) 執行機関
学校教育課参事 大森雅明、学校教育課長補佐 赤坂晋
教育企画係長 山本匡貴、教育企画係 山口陽子
*欠席 学校教育課長 柴田きよみ
7. 傍聴人数(会議を公開した場合のみ) 0人
8. 議題及び審議の内容

【議題】

- (1) 前回までの審議経過について
- (2) 財源について
- (3) 施設整備の方法について

【審議の内容】

- (1) 前回までの審議経過について
 - 資料P2に沿って説明を行った。(事務局)
- (2) 財源について
 - 地方債一般財源負担率について、資料12に沿って説明を行った。(事務局)
 - 学校施設整備(新增築・改築)国庫補助メニューについて、資料13に沿って説明を行った。(事務局)

説明を受け、審議を行い、次のような質問や意見が出た。(委員)

- 30億円と試算してあるが、今は災害等で資材が値上がりしている。この試算は変化するのか。
→単価は毎年変動しており、今後の変動についてはわからない。実際の金額は、設計時点での単価になる。提示している建築費30億円は、平成28年度の国交省資料から

学校建設時の平均単価 30 万円/㎡で試算している。(事務局)

○耐力度調査を行った学校はあるのか。

→嘉麻市は現在、全学校未実施。耐力度調査は、基本的に「危険建物の改築」として交付金を申請するときに行う調査である。(事務局)

(3) 施設整備の方法について

①平成 21 年度に作成した基本計画に則り、大規模改修を中心に施設整備を実施し、耐用年数経過時点で改築方法を再検討する。

②基本計画の見直しを行い、大規模改修から改築による施設整備へ変更する。ただし、学校数は既存学校数を維持する。

③基本計画の見直しを行い、大規模改修から改築による施設整備へ変更する。ただし、小学校と中学校を一体型校舎とする。

○財源や安心安全面から考えると③が妥当だと思う。

○熊ヶ畑小学校は、市内で唯一の小規模特認校であるため存続させてほしい。

あの環境だからこそできる取組みや教育がある。校区内外の児童数も増えてきている。

→嘉麻市の全体の基本方針を「③基本計画の見直しを行い、大規模改修から改築による施設整備へ変更する。ただし、小学校と中学校を一体型校舎とする。」とする。

なお、熊ヶ畑小学校に関しては小規模特認校として存続していく方向とする。

優先度について

○優先順位は、安全面から碓井中校区が一番だろう。

○稲築中校区と稲築東中校区は建築年数も同じくらい。プールも使用不可能であり建物の老朽化も同程度。児童生徒数を比べると、稲築中校区の方が多い。子どもたちにはのびやかに育ってほしいため児童生徒数の多いところを先にしたらどうか。

○嘉穂中校区は、嘉穂小・嘉穂中は新しく、牛隈小は大規模改修したばかり。

○山田中校区は、熊ヶ畑小を小規模特認校として残すとしても、上山田小・下山田小は比較的新しく、山田中は大規模改修したばかり。

→5 中学校区順序は、碓井中校区、稲築中校区、稲築東中校区、山田中校区、嘉穂中校区とする。

また、山田中校区・嘉穂中校区は緩やかな整備の方向とする。

用地について

○碓井中校区は中学校敷地が土砂災害警戒区域に指定されていることから、小学校敷地を使うか他の敷地となるだろう。

○稲築東中校区は、小学校敷地が高台にあるため地域の目が届きにくい。安全かつ地域の方の目の届くところがいい。中学校に併設できればいいなと思う。

○稲築中校区は、小学校と中学校が隣接しているためその間だろう。

○グラウンドの広さを部活動ができる分だけ確保してほしい。グラウンドが狭いために移動している他市の学校もあるようだが、安全管理の面から心配。

○防災面からアクセスのしやすいところがいい。平地で道幅の広いところ。

○その他

- ・岩崎の道路工事の話（国道211号）

9. 配布資料

(1) レジюме

(2) 第3回嘉麻市学校施設整備審議会 資料

【資料12】地方債別一般財源負担比率比較

【資料13】学校施設整備（新增築・改築）に係る国庫補助メニュー